

企業ニーズ及びシーズ調査

Survey on R&D Resources in Hiroshima Prefecture

 キーワード

地域科学技術、研究開発機関、研究開発人材

1. 調査の目的

平成10年に本格稼働が予定されている広島県産業科学技術研究所（仮称）（以下同研究所）は、広島県を中心とするスーパーテクノゾーン(STZ)において地域型 COE として地域産業の創造的発展に貢献することが期待されている。

この実現のため、同研究所は次代の産業のシーズ育成につながる基礎的・先導的分野の具体的な研究課題を温めている STZ および岡山県、鳥取県を含む地域（以下 地域）の優秀な研究者に焦点を当て、この研究者をプロジェクトリーダーとし、STZ 内の産学官を結集させた共同開発プロジェクト（流動研究体制）を展開して短期間で集中的な研究開発を進め、シーズを発芽させることを企図している。

本調査の最終目的は同研究所の産学官共同開発プロジェクトの将来の研究テーマと研究リーダーの候補についての広汎なリストを構築し、同研究所の今後の活動に資するための基礎的資料の提供することにある。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査の構造

本調査研究は大きく3つの調査とそれらのまとめの部分の4項目からなる。

先端科学技術動向調査で、わが国における代表的なプロジェクト研究や個人研究助成の仕組みを対象にして先端科学技術に関する研究テーマと研究人材について把握した。次に、大学における研究シーズ調査では、地域の研究者が温めている研究テーマ（共同研究シーズ候補）を探索し、共同研究に対する地域企業のニーズ調査で、共同研究シーズ候補に対する地域企業の関心、参加意欲（共同研究ニーズ）を確定し（シーズとニーズのマッチング）、まとめにおいて、先端科学技術の動向と併せて、広島県産業科学技術研究所の共同研究プロジェクトの研究テーマ候補と有望研究者リスト等からなる検討資料を構築した。

(2) 調査の内容

既存プロジェクトを対象とした先端科学技術動向調査

先端科学技術の内容（分野・領域）を設定し動向分析のフレームを策定した。これを基に適当なキーワードを設定してデータベース検索を行い、論文発表件数の推移（直近から数年遡及）から先端科学技術の動向を把握した。

次に、国、自治体等が取り組んでいる先端的研究プロジェクトの研究テーマを収集・整理し、研究テーマリストを作成した。また、上記のマップにこれらを落とし込み動向を概観した。

地域の大学における研究シーズ調査

地域に多数存在する大学研究者（国立大学と私立大学の理学部・工学部・農学部系の教授1208名）を対象として、これら研究者が温めている研究テーマと取り組むにあたって必要な条件（設備や体制など）をアンケート調査により把握した。

共同研究シーズに対する地域の企業のニーズ調査

共同研究シーズ候補に対する企業（408社）の関心・支持（ニーズ）を検討した。共同研究シーズ候補の中から関心のあるテーマを選択し、さらに参加の可能性、その際の条件等を聞きシーズとニーズのマッチングを図った。また、共同研究シーズ候補以外で関心のある研究テーマの提案を求め、さらに注目している研究者を聞いた。

まとめ

共同研究テーマ検討資料の作成

- ・企業ニーズ先行型研究テーマ

企業の関心の高い研究テーマで構成した。

- ・戦略型研究テーマ

企業の関心は高くない領域であるが先端科学技術の動向を踏まえると今後戦略的に位置づける必要のある領域に含まれる研究テーマで構成した。

- ・地域型研究テーマ

地域に特徴的な資源や地理的条件、環境等を対象としたテーマで地域への貢献が期待できる研究テーマで構成した。

- ・企業提案型研究テーマ

企業が提案した研究テーマで構成した。

研究人材検討資料の作成

- ・類型別提案研究者リスト

先端的研究プロジェクトと地域の大学研究者の2つ類型別に研究者のリストを構築した。

- ・注目研究者リスト

地域の大学研究者が注目する研究者と企業が注目する研究者を併せてリストを構築した。

・将来のプロジェクトリーダー候補リスト

地域の大学研究者が注目する地域の若手研究者のリストを構築した。

(3)主な成果

先端科学技術マップが作成されたこと

先端科学技術の代表的な分野である新材料・プロセス分野、情報・エレクトロニクス分野、ライフサイエンス分野、生産・機械システム分野、通信分野の5つについて、それらの分野の構造を明らかにし、研究開発の動向を検討する上で有効な「先端科学技術マップ」が作成された。

先端的な研究プロジェクトの研究テーマと関連する研究者が整理されたこと

国、地域が取り組んでいる14の先端的な研究プロジェクトのほぼ全ての研究テーマと研究リーダー等の研究者が一括して資料として整理された。また上記の先端科学技術マップで研究テーマ設定の状況が概観できる。

地域の研究者の温めている多様な研究テーマ、研究会テーマが得られたこと

地域の大学研究者（理学、工学、農学系の教授）261人から共同研究テーマ候補となる441テーマとその概要が得られた。また、共同研究の前駆段階として位置づけられる産学官の研究会テーマ候補となる199テーマも得られた。しかもいずれのテーマも学術的な分類により整理されている。

地域の研究者が注目する我が国の研究者、地域の若手研究者の情報が得られたこと

地域の大学研究者が日頃から注目している我が国の研究者延べ206名（重複あり）と注目している若手研究者（地域の機関に所属）延べ159名（重複あり）が得られた。併せて記入された注目理由により、それら研究者の取り組んでいる研究テーマ等が情報として整理された。

共同研究シーズとニーズのマッチングが図られたこと

地域の研究者から提案のあった研究テーマ（共同研究シーズ）に対する企業の関心が今回の調査で初めて定量的に把握された。企業が関心ありとしたテーマは143テーマにもなった。7社が選択したテーマが最も関心の高かったテーマであり、このように共同研究シーズに対する企業のニーズの所在が明らかになった。